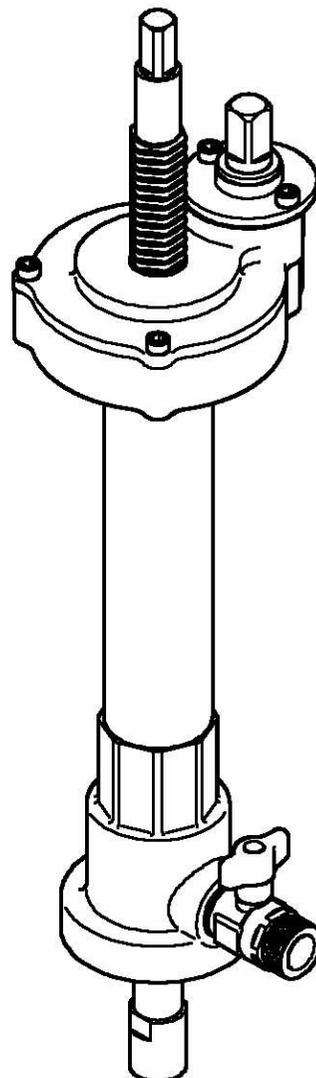


水道用自動送り穿孔機

A-7 ペガサス

取扱説明書



このたびは“水道用自動送り穿孔機ペガサス”をお買い上げ頂き誠に有難うございます。

ご使用に先立ち、必ずこの**取扱説明書を最後までよくお読みいただき**、本機の性能を十分ご理解の上、適切な取り扱いと保守をもって、末永く安全に能率よくお使いいただきますようお願い申し上げます。

なお、この取扱説明書は**お手元に大切に保管してください**。

安全に関する表示について

この取扱説明書では、この製品を安全にご使用いただき、ご使用になる方やほかの人々への危害と財産への損害を防ぐために、次のような表示をしています。

内容をよく理解した上で取扱説明書の本文をよく読み、正しくご使用下さい。



警告

取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示しています。



注意

取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示しています。

なお、「注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

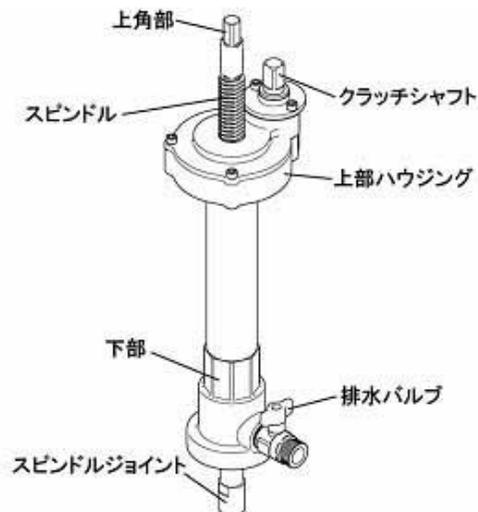
OSAKI

安全上のご注意

⚠ 警告

- ご使用前に必ず各部の点検を行なってください。
- 足場をしっかりと確保して作業してください。
穿孔中は電気ドリルに反力がかかります。無理な体勢や不安定な場所での作業は事故の原因となります。
- 各部の取付け・締付けは確実に行ってください。
穿孔中に外れたり回されたりして事故やけがの原因となります。
- 回転中のスピンドル・ジョイント等には絶対に手や体・衣服の一部を当てないでください。巻き込まれ、けがの原因となります。
- 作業中本機に異常を感じた時は、直ちに使用を中止し、販売店または弊社営業所へ点検・修理をご依頼ください。
無理な使用はけがや事故の原因となります。
- 使用後は十分なメンテナンスを行い、正しく保管してください。
故障や事故の原因となります。
- 本機を修理する場合は、必ず販売店または弊社営業所へご依頼ください。
故障や事故の原因となります。
- ドリルやカッター・アダプターは、必ず弊社のものをお使いください。
故障や事故の原因となります。
- ドリル・カッターの刃部には絶対に手や体の一部を当てないでください。
けがの原因となります。
- 工具・補助部品等は必ず付属品又は弊社推奨品をお使いください。
故障や事故の原因となります。
- 本機を分解したり改造することは絶対におやめください。
故障や事故の原因となります。
- 電気ドリルの取扱説明書も合わせてお読みください。

本体各部の名称



使用方法

始業点検

○使用するドリル・カッターの刃部分に過度の磨耗や破損が無いことを確認してください。

⚠ 警告

磨耗・破損したドリル・カッターを使用されますと、本体や電気ドリルに無理な力がかかり、故障や事故の原因となります。

○本体・アダプターのパッキンに傷・割れ等の無いことを確認してください。

⚠ 警告

パッキンが破損したまま使用しますと接合部分より水が出ることもあり、電気ドリルの故障や感電事故の原因となります。

○スピンドルが軽く回転すること、クラッチシャフトが容易に上下することを確認してください。

⚠ 注意

異常が認められた場合は直ちに使用を中止し、販売店または弊社営業所へ点検・修理をご依頼ください。

アダプターの取り付け

サドル分水栓に指定のアダプターを取り付けます。50の一般分水栓はアダプター不要です。(分水栓の種類によっては異なる場合があります。)



ドリル・カッターの取り付け

スピンドル先端のジョイントに指定のドリル又はカッターを取り付けます。ネジは反時計回りにねじ込んでください。分水栓によってはオプションのジョイントが必要な場合もあります。

⚠ 警告

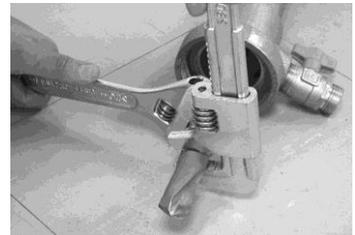
アダプターやドリル・カッターの取り付けは確実に行ってください。穿孔中に外れたり回されたりして事故やけがの原因となります。

⚠ 注意

スピンドル側はオプションの片ロスパナ等（お手持ちの22mmスパナやモンキーレンチ使用可）を必ずスピンドルジョイント平面にかけてください。

⚠ 注意

パイプレンチをスピンドルにかけないでください。シール部品の破損や故障の原因となります。



クラッチシャフトの操作について

早送り・引上げのとき

クラッチシャフトを引き上げながら回してゆくと、さらに引き上がり回転しなくなります。この状態で、付属のクランクハンドルを用いスピンドルを上下させます。



穿孔のとき

クラッチシャフトをいっぱいまで下げます。クランクハンドルでスピンドルをわずかに回しながら行なうと容易です。

⚠ 警告

クラッチシャフトの操作は確実にこなしてください。故障や事故の原因となります。



スピンドルの引き上げ

クラッチシャフトを引き上げ、スピンドル上角部にクランクハンドルを差し込み、反時計方向に回していっぱい引き上げます。



本体の取り付け

アダプターにゴミ等がないことを確認しペガサス本体を分水栓にねじ込み取り付けます。

⚠ 警告

本体の取り付けは確実にこなしてください。穿孔中に回されたりぐらついたりして事故やけがの原因となります。

⚠ 注意

本体の取り付けは必ず付属のモーターレンチを下部平面にかけて行ってください。上部ハウジングにスパナ等をかけないでください。故障の原因となります。



分水栓開閉の確認

分水栓の仕様変更やオプションジョイントの外し忘れ等で穿孔後バルブが閉められなくなる事故を防ぐ為に、本体を取り付けたら穿孔前に分水栓のバルブが開閉できることを必ず確認してください。

排水ホースの取り付け

本体の排水バルブに付属の排水ホースを確実に取り付け、排水バルブを開きます。

⚠ 警告

穿孔中はホース先端から水が出ます。安全な場所に設置してください。電気ドリルや電源プラグに水がかかると故障や感電事故につながります。

⚠ 注意

空管穿孔を除き、切粉排出の為必ずホースから排水してください。



スピンドルの早送り

クラッチシャフトを引き上げた状態でスピンドル上角部のクランクハンドルを時計方向に回し、ドリルまたはセンタードリルの先端が管にあたるまで送り、わずかに戻します。

⚠ 注意

ドリル又はセンタードリルの先端を強く管にあてないでください。刃先が破損することがあります。

クラッチシャフトのセット

クラッチシャフトを下げクランクハンドルを取り外します。

⚠ 警告

穿孔前に必ずクランクハンドルが外されていることを確認してください。そのまま電気ドリルを回転させますと、ハンドルが高速で回り非常に危険です。



電気ドリルの準備

付属の電気ドリル先端に付属のモータージョイントをしっかり取り付けてください。

⚠ 注意

以下電気ドリルのお取り扱いに関しましては電気ドリルの取扱説明書を参照してください。



電気ドリルでの穿孔

電気ドリルの正逆転切り替えレバーを**右回転**にします。電源プラグを差し込み、モータージョイントをクラッチシャフトの角部に差し込みます。体勢を整えてスイッチの引金を引くと穿孔が始まります。両手でしっかりと電気ドリルを支持し、反力に備えてください。

⚠ 警告

穿孔中は十分注意して慎重に作業してください。回転中のスピンドルやジョイント等には絶対に手や体・衣服の一部を当てないでください。巻き込まれ、けがの原因となります。

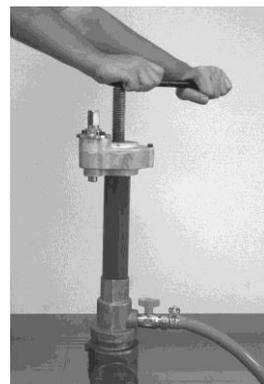
⚠ 注意

本機はスピンドルが自動的に送られる構造になっています。電気ドリルを押し付ける必要はありません。



手動での穿孔

オプションの専用ラチェットハンドルを用いれば、手動での穿孔がおこなえます。スピンドルを下げ、クラッチシャフトを穿孔側にセットするまでは電気ドリルでの穿孔と同じです。ラチェットハンドルをスピンドル上角部に差し込み、反時計方向に回し穿孔してください。



穿孔ストロークの下限について

スピンドルのネジ部が上部ハウジングに完全に収納されるとストロークの限界となり回転がロックされてしまいます。電気ドリルでの穿孔中は特に注意をしてください。限界に達しても穿孔しきれない時にはオプションのジョイントが必要となります。弊社までご相談ください。



穿孔終了の目安

ドリルやカッターが管を削り始めると電気ドリルの回転が下がり反力も大きくなりますが、切り終わるにつれ回転が上がり反力もなくなります。

完全に空回転の状態になりましたら念のためもう20～30秒ほど回転させ電気ドリルを停止・取り外してください。

手動の場合は切削の抵抗がなくなったら穿孔終了です。

後記の各管種における最大穿孔距離（管に当たってから穿孔終了までの距離）を参考にしてください。

穿孔穴の確認

クラッチシャフトを下げたままスピンドル上角部にクランクハンドルを差し込み反時計方向に回転させます。このときひっかかりや抵抗を感じたら完全に穿孔されていませんので、再度穿孔を行ってください。スムーズにスピンドルが回転出来れば穿孔終了です。

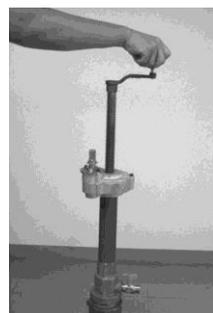
⚠ 注意

無理にスピンドルを回転させないでください。ドリルやカッターが破損することがあります。



スピンドル引き上げ

クラッチシャフトを引き上げスピンドル上角部にクランクハンドルを差し込んでください。反時計方向に回しスピンドルをいっぱいまで引き上げます。



本体の取り外し

サドル分水栓を閉じ、排水ホース・本体・アダプターを外します。

切片の取り除き

カッターで穿孔した後は中に残った切片を必ず取り除いてください。

オプションのコッターなど（マイナスドライバー等でも可）をカッターと切片の間に差し込みこじってください。

⚠ 注意

切片を取り除く時はカッターやセンタードリルを破損させないように慎重におこなってください。



ドリル・カッターの取り外し

スピンドル先端のジョイント平面とドリルまたはカッターの平面にそれぞれスパナやモーターレンチ等をかけます。ドリルまたはカッターを時計方向に強く回し取り外してください。



注意

スピンドル側はオプションの片口スパナ等（お手持ちの22mmスパナやモンキーレンチ使用可）を必ずジョイント平面にかけてください。上角部へスパナをかけるとジョイントが外れることがあります。



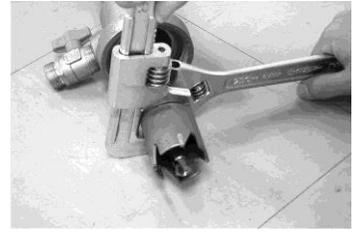
注意

パイレンチをスピンドルにかけないでください。シール部品の破損や故障の原因となります。



注意

ドリル・カッターは毎回外して保管されることをおすすめします。取り付けたまま長時間放置しますと錆び付きにより外しづらくなることがあります。



お手入れと保管

使用後は本体やアダプター等に付いた泥・砂・切粉・水気等をきれいに取り除いてください。特にスピンドルのネジや各接合ネジ部は念入りにおこなってください。市販の機械用オイル等を塗布していただきますとより効果的です。本体や各部品を収納箱に収め乾燥した場所に保管してください。

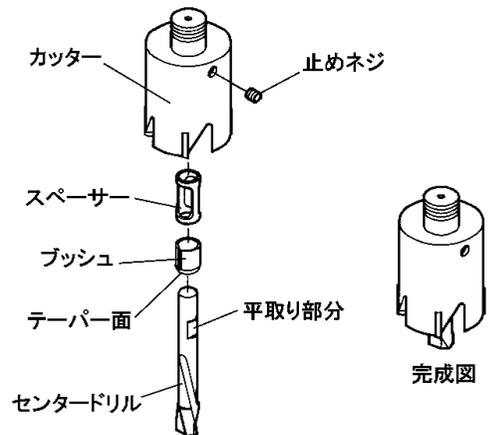
カッターの組み立て

カッターにセンタードリルを組み込む場合は、右の図を参考におこなってください。ブッシュの向きや位置を間違えないでください。センタードリルの差し込み部にはグリスを付けてください。止めネジがセンタードリル平面にあたるようにして、付属の六角棒レンチで十分に締め付けてください。

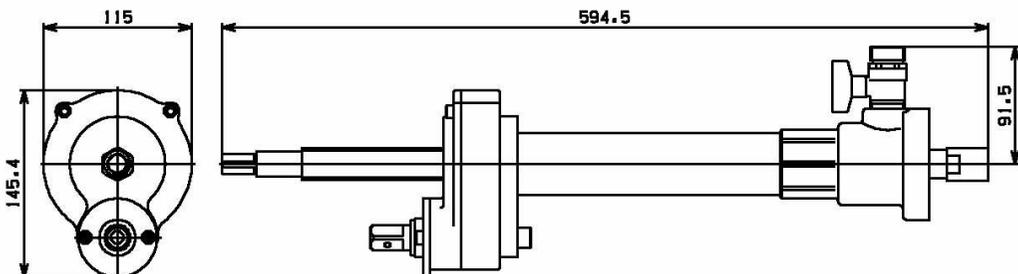


警告

センタードリルの取り付けは確実にこなってください。本体の故障や事故の原因となります。



外形寸法



各管種における最大穿孔距離

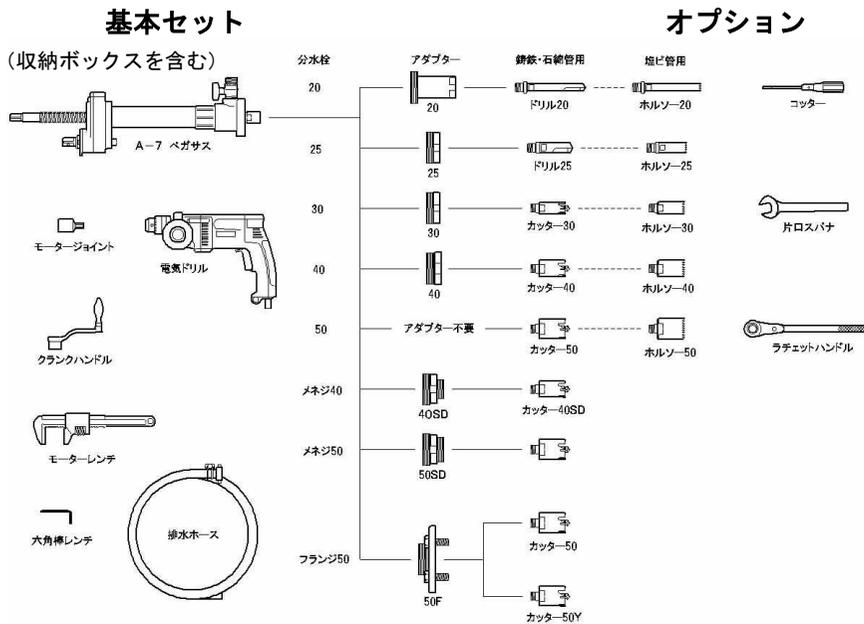
	鋳鉄管	石綿管	塩ビ管
最大穿孔距離	35mm	50mm	25mm

管径300以内、管径・穿孔径によっては短くなります。

仕様

本体重量	6.2kg
穿孔径	20~50
管種	鋳鉄・石綿管・塩ビ
穿孔時間	鋳鉄管に50穿孔で2.5分以上
動力	マキタ電気ドリル DP4002

システム組合せ図



オオ サキ セイ ミツ

大肯精密株式会社
www.osaki-precision.co.jp

本社・工場	〒146-0081 東京都大田区仲池上 2-19-6	Tel.03-3755-3311 (代)	Fax.03-3755-1918
関東営業所	〒146-0081 東京都大田区仲池上 2-19-6	Tel.03-3755-3313 (代)	Fax.03-3755-1918
東北営業所	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目7-30 エグゼクティブ上杉309号室	Tel.022-217-2360 (代)	Fax.022-217-2370
東海営業所	〒456-0004 愛知県名古屋市中区熱田区榎田町13-2 AiRA-2A	Tel.052-884-2350 (代)	Fax.052-884-2351
関西営業所	〒650-0025 兵庫県神戸市中央区相生町4-2-28 神戸駅前千代田ビル8F	Tel.078-361-3331 (代)	Fax.078-361-3533
九州営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅前 1-13-9 博多駅前 113ビル 5F	Tel.092-292-4607 (代)	Fax.092-292-4608

